



臨時に開催された山武市野菜市

山武市の特産物で元気になろう

山武市野菜市

市では、ＪＲ千葉駅東口で、毎月１回３日間を目安に「山武市野菜市」（駅ナカ）を開催し、「旬」の農作物を販売しています。

今回、原発の影響による農作物等の風評被害を払拭しようと、４月１８、１９日に臨時開催。さらに２６～２８日にも３日間開催。多くのお客さんが足を止めて、地元で採れたホウレンソウやサニーレタス、きゅうり、ねぎなどを買い求めています。

お客さんからは「がんばってね」「毎月楽しみにしているよ」と声をかけられました。

人の絆のつながりで地域を応援

福島・茨城・栃木・群馬・千葉応援産直市

５月３日から７日の５日間、「応援産直市」が開催されました。

これは、原発事故による農畜産物の一部出荷停止の指示対象となったり、風評被害にあった福島、茨城、栃木、群馬、千葉県の農家を応援しようとＪＲ東日本が主催したものです。

また、農林水産省が食育推進する、食べることを大切にそして作る人たちの思いを伝える「マジごはん計画」とも連携。

市では、５月７日に東京秋葉原駅構内で行われた産直市に参加し苺ジャムといちご酢を販売しました。



安全・安心な農畜産物が店頭に並びます

延宝９年の石灯籠

灯籠の寄進

写真の石灯籠は、第４代将軍徳川家綱（嚴有院殿）公の一周忌にあたる延宝９（１６８１）年５月８日に、東京上野東叡山寛永寺に建立された内の一基です。

建立者は、譜代大名の名家陸奥国磐城平藩（福島県）７万石第３代藩主内藤左京大夫藤原義概です。

その灯籠は、仏縁によって齋藤家（小松）の所有となり、先祖代々菩提のためにと齋藤稔氏が慈広寺（小松）に寄進されました。

内藤義概……藩政において領内に防風林を植樹したり仏閣や寺社の再建に励んだ。奥州俳壇の始祖と呼ばれるほどの教養人であり、和歌の方面では多くの著作を残している。



突然変異？

クンシランの花

松尾町八田の木村さんから、連絡をもらい行ってみるとクリーム色のクンシランの花が咲いていました。通常のクンシランは、オレンジ色が主流です。

拝見させていただいたクンシランは、もともとオレンジ色のクンシラン（写真右）を株分けしたものだそうです。

クンシラン（君子蘭）……科名はヒガンバナ科、原産地は南アフリカ。開花時期は、４月から５月で、毎年花を咲かせる多年草。変種に白やクリーム色の花を咲かせるもの、葉に様々な模様の斑が入るものがある。

